



ツチアゲの様子（つるぎ町貞光）

四国中央部の「にし阿波」と呼ばれる徳島県西部の山間部では、場所によっては斜度40度にもなる急傾斜地で、段々畑のような水平面を形成せずに傾斜地のまま農耕し、風雨などで起こる土の流出を草地で採取した敷き草（カヤ）を畑にすき込むことで最小限に抑え、そば等の雑穀や伝統野菜に山菜、果樹など少量多品目を組み合わせる複合経営により、山間地の環境に適応し

てきました。これが「にし阿波の傾斜地農耕システム」です。

400年以上にもわたり、この農耕システムが継承されてきたことにより、採草地の多様な動植物や焼畑農法の流れを汲む、日本の原風景ともいえる山村景観、保存食への加工や食文化、そして農耕にまつわる伝統行事なども人々の手で守られ継承されています。

平成30年3月認定

徳島県にし阿波地域

## にし阿波の傾斜地農耕システム

急傾斜地にカヤをすき込んで土壌流出を防ぎ、独自の農機具を用いて段々畑を作らずに斜面のまま耕作する独特な農法で、在来品種の雑穀など多様な品目を栽培。



そば米雑炊：そばを粉にせず、実のままでいただく当地域独特の郷土料理

令和4年7月認定

山梨県峡東地域

## 峡東地域の扇状地に適応した果樹農業システム

扇状地の傾斜地において、土壌や地形等に応じた、ブドウやモモなどの果樹の適地・適作が古くから行われ、独自のブドウの棚式栽培が開発されるなど、現在まで独創的な果樹農業を継承。



モモやスモモの花が咲き乱れる春の風景



我が国固有品種「甲州」ブドウ

峡東地域には、大小様々な扇状地があり、傾斜や起伏、土壌などが異なる条件に適応した果樹栽培が行われてきました。

ブドウやモモ、スモモ、カキなど10品目以上、品種・系統数では300以上の豊富な遺伝資源が受け継がれています。中でも、我が国固有品種である「甲州」は、1300年以上前から栽培されていたとされています。

多雨・湿潤の気象条件に適応し、安定的なブドウ栽培を可能とする棚栽培（甲

州式ブドウ棚）が、峡東地域で約400年前に開発され、疎植・大木仕立ての栽培技術とともに日本各地に普及しています。

こうした技術を伝承しながら、現在は、きめ細かな手作業による高品質な果実や加工品を安定的に生産し、収益性の高い農業を確立しています。

また、ワイン醸造などの果実加工や観光果実園も発展し、様々な文化・祭事とともに世界に誇る特色ある地域を形成しています。



早朝、朝もやの中で漁獲を待つ伝統的なエリ（小型の定置網）

多くの在来魚が生息する琵琶湖の湖辺では、弥生時代以降、人が開発した水田にニゴロブナ等の湖魚が遡上し、そこを繁殖場として利用するようになりました。そして、人は農作業の傍ら、こうした湖魚を捕獲する待ち受け型の漁法を発展させてきました。漁法の代表格はエリ漁です。鎌倉時代には、漁獲の競合に対処するためエリの設置を制限するなど社会的な仕組みも築かれ、現在の資源保全や漁業調整の礎となっています。漁獲された湖魚は、「ふなずし」等の「なれ

ずし」にも加工され、重要な保存食となるほか、客人をもてなす御馳走や祭礼でのお供えとしても用いられてきました。こうした食文化は、漁業や農業を受け継ぐ精神文化的な基盤の醸成に寄与してきました。また、多様な主体が参画して琵琶湖の水質や生態系を保全する、現代の「環境こだわり農業」や湖魚が産卵のために遡上する「魚のゆりかご水田」、水源林保全にもつながってきています。

令和4年7月認定

## 滋賀県琵琶湖地域

### 森・里・湖(うみ)に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム

水田営農との深い関わりの中で発展してきた伝統的な琵琶湖漁業がその中心。「里湖(さとうみ)」とも呼ばれる循環型システムで、千年の歴史を有するエリ漁や独特の食文化が継承されている。



湖の魚が産卵にやってくる「魚のゆりかご水田」での「生きもの観察会」

## 世界農業遺産 Q & A

Q1

認定されると  
どのようなメリットがあるのですか？

地域固有の農林水産業の価値が認められることで、地域の自信と誇りを醸成するとともに、農林水産物のブランド化や観光客誘致を通じた地域経済の活性化が期待されます。また、認定地域間の交流など、地域の枠を超えた取組も望めます。

Q2

認定されると  
どのような活動が必要ですか？

認定を受けた地域は、自らが定めた保全計画に基づいた動的保全の取組を行う必要があります。農業遺産における動的保全とは、社会や環境に適応しながら農林水産業システムを継承しつつ、農林水産業システムの活用により地域の活性化を図る取組を推進していくことを意味します。

# 海外の世界農業遺産認定地域



## チロエ農業 ▶チリ

ジャガイモの原産地として知られるチロエ島では、200品種ものジャガイモの在来種が栽培されており、その先祖伝来の慣行は、主に女性によって何世代にもわたり継承されてきました。また、温帯雨林は希少な動植物の住処であり、生物資源の宝庫となっています。



## カシャーンのカナート灌漑システム ▶イラン

乾燥地域のイランは、世界で最も伝統ある農業地域の一つです。カナート灌漑システムは紀元前800年頃に始まりました。地下水路が貴重な水の蒸発を防ぎ、安定的に水を供給することで、砂漠地帯における作物生産を可能にしています。農家は最も効率良く水が利用できるよう、作物を組合せて栽培しています。



## 青田の水田養魚 ▶中国

当地域では、何世代にも渡り水田における魚の養殖が行われており、水田で魚の養殖を行った記録は2000年前まで遡ります。イネは魚に日陰や食料を供給し、魚は雑草やイネの害虫を食べ、イネが成長するための養分をもたらします。また、魚が水田を泳ぐことで土壌がやわらかくなり、水中に酸素供給されます。



## アグロフォレストリーシステム ▶タンザニア

当地域では、豊かな農業と森林の共存が営まれています。菜園は4つの層から成り立ち、一番上に日陰をもたらす樹木、次いでバナナ、コーヒー、一番下で野菜等を栽培し、限られた土地の中で生産効率を最大限に高めた農業を行っています。

# 申請から認定まで

